令和8年度　授業改善推進プラン＜学年別＞

学校名　　練馬区立立野小学校

１年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・拗音、長音、促音といった文字を表す際、読めるが、書き間違えてしまう児童がいる。 ・文を書く際、「は」、「を」、「へ」を「わ」、「お」、「え」と間違えてしまう児童がいる。 ・文章を書くときに、句読点を的確につけられない児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・具体的な内容を伝えることが難しい児童がいる。	・発音、文字の順で学ばせる。例えば拗音であれば、「きゃ」「きゅ」「きょ」を声に出して何度も繰り返し、その後、書く練習をさせる。音の変化を意識して書かせることで、音と文字の関係が身に付くようにさせる。 ・「は」は主語、「を」は目的語、「へ」は方向を示すなど、それぞれの使い分けを説明し、意味と一緒に覚えさせる。文を書く取組の際にそれらの点を意識して書くようその都度指導していく。 ・音読の際に、句読点で間を空けるなど意識させる。 ・選択肢を用意し、より児童の思いや考えに近いものを選択させていく。理由なども問いかけながら、伝えたいことを表現させていく。
算数	【知識・技能】 ・１０までのたし算やひき算で、数の分解の理解が定着していない児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・数の分解を苦手とする児童の中には、数のまとまりや数量の関係に着目できず、ブロック等の具体物の活用ができない場合もあった。	・授業の最初に２，３問の計算に取り組ませ、基本的な計算の定着を図る。 ・図や絵などの具体物で加法や減法の意味を具体的に捉えられるようにする。 ・教師や友達と一緒に具体物を操作しながら、問題の場面のイメージをもたせるようにする。 ・繰り返し具体物の操作に慣れるようにし、計算の仕方を考える際に使えるようにする。

２年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・１年生で学習した漢字の定着に課題が見られ、既習漢字を正しく書くことができない児童がいる。また、書き順を十分に意識せずに書く児童や、字形や文字のバランスが崩れている児童も見られる。 ・文末に句点（。）を適切に付けることへの意識が十分でなく、句点の付け忘れが見られる児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・主語と述語の対応が十分に理解できておらず、文のつながりが不自然になる児童が見られる。 ・一文が長くなり過ぎて内容が分かりにくくなったり、短文のみで構成され、まとまりのある文章を書くことが難しかったりする児童が見られる。	・既習漢字を繰り返し活用する機会を設け、日常的な復習を通して定着を図る。 ・書き順や字形、とめ・はね・はらいを意識した指導を継続し、正しく整った文字を書く力を育成する。 ・文を書く活動では、文末に句点を付けることを確認するとともに、書き終えた後に「文末に句点が付いているか」を見直す習慣を身に付けさせる。 ・主語と述語に着目した短文づくりや並べ替え活動を継続的に取り入れ、文の基本的な構成を理解できるよう指導する。また、書いた文を読み返し、主語と述語が対応しているかを確認する習慣を身に付けさせることで、分かりやすい文を書く力の育成を図る。 ・文章の組み立てを意識した学習活動を継続的に取り入れ、「はじめ・中・おわり」や「時間の順」「事柄の順」に沿って書く指導を行う。また、一文一文を短く分かりやすく書くことを意識させるとともに、接続語を適切に用いて文と文をつなぎ、まとまりのある文章を書く力の育成を図る。
算数	【知識・技能】 ・時計の時刻を正しく読むことや、「〇分前」「〇時間後」など時間を進めたり戻したりして考えることに課題が見られる児童がいる。 ・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法の計算が十分に定着しておらず、計算ミスが見られる児童がいる。計算の仕方を理解していても、正確に計算することに課題が見られる。 【思考・判断・表現】 ・文章問題に苦手意識をもつ児童が見られ、問題文を最後まで読まずに解き始めたり、必要な情報を正しく読み取れなかったりすることがある。また、答えの単位を書き忘れたり、誤った単位を用いたりする児童も見られる。	・時計の模型や数直線を活用し、時刻を正確に読む活動を継続的に行うとともに、「〇分後」「〇分前」などの時間の進み方や戻り方を、実際に針を動かしたり、数直線上で時間を進めたり戻したりする操作活動を通して捉えられるようにする。また、登校時刻や休み時間、給食など、学校生活の具体的な場面と関連付けて考えることで、時間の感覚を身に付けさせる。 ・繰り上がりや繰り下がりの仕組みを確実に理解できるよう、具体物や図を活用して位の構成を確認するとともに、筆算の手順を統一して指導する。計算時には「位をそろえる」「1の位から計算する」「繰り上がり・繰り下がりを確認する」などの手順を意識させ、正確に計算する力を育てる。 ・文章問題を最後まで読むことや、問題文から必要な情報を正確に読み取ることができるよう、「分かっていること」「求めること」を明確にする活動を取り入れる。問題文の大切な部分に線を引いたり、図や絵に表したりすることで、数量の関係を視覚的に捉えられるようにする。

３年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・漢字の書き取りと読みが定着できていない児童がいる。 ・既習の漢字の活用ができない児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・音読の読み飛ばしがある児童がいる。 ・文章理解が不十分になる児童がいる。 ・文章を書くことが苦手な児童がいる。	・漢字テストの実施日を予告し、漢字テストに向けての意欲を高める。 ・漢字を使った熟語を書くともらえるボーナスポイントを与え、意欲を高める。 ・モジュールの時間に漢字練習に取り組めるようにする。 ・漢字プリントに定期的に取り組み、習熟を図る。 ・ドリルパークの漢字ドリルに取り組ませる。 ・音読の宿題を定期的に出し、音読をする習慣を身に付けさせる。 ・読書を促し、文章を読む機会を増やす。 ・文章の例文を示したり、穴埋めをしたりして、文章を無理なく書くことができるようにする。
算数	【知識・技能】 ・かけ算九九やたし算やひき算の計算で、繰り上がり、繰り下がりが定着していない児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・思考力が必要な課題に取り組むことができない、または正しく解答することができない児童がいる。	・授業の最初に計算プリントに取り組ませ、基本的な計算の定着を図る。 ・板書計画を精選したりプリントを貼らせたりして、児童が長々とノートを書かないようにする。 ・問題に答える前に、全体でどのように考えればよいのか見通しをもたせるようにする。 ・具体物を操作しながら、問題の場面のイメージをもたせるようにする。 ・問題の場面の図や絵を描かせ、イメージした場面を表現させてから立式させる。

４年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・漢字の習熟に課題があり、読み仮名を見て漢字を書くことができない児童が多い。 ・聞いたことや書いてあることから必要な情報だけを抜き出すことが難しい児童が多い。 【思考・判断・表現】 ・文章を書くことが全般的に苦手である児童が多い。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章を何度も読み返そうとしない。読むことを億劫に感じている。 ・課題に対してやる気が起きない児童がそれぞれの学級に数名いる。 ・活字に触れる機会が少ない。（読書量が少ない。） ・語彙力が乏しい。	・漢字ドリルや漢字の小テストをモジュールの時間に活用して漢字を書いたり直したりする機会を増やす。 ・大切なことには色のついた線を引かせたり、話した内容を言わせたりする活動を取り入れる。 ・様々な題材の文章を書かせたり、友達が書いた文章を読ませたりする。 ・音読の宿題を毎日実施することで文章を読むハードルを下げ、読む力を身に付ける。 ・テスト後に解き直しの活動を取り入れ、自分で間違いを見付けたり直したりすることができるようにする。 ・表現する言葉をまとめた資料(言葉の宝箱)を使って様々な言葉で気持ちや様子を表すことができるようにする。
算数	【知識・技能】 ・九九、割り算、繰り上がり、繰り下がりのある足し算・引き算が困難な児童が若干名いる。 ・コンパス、分度器、定規の扱いが未熟。 ・ノートを書いている時間が長く、説明を聞いていない児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・第２、第３の解決方法を理解できない。 ・思考力を問う問題に対して聞かれていることが分からない。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プリントは意欲的に取り組むが、文や図を用いて解法を考える活動は消極的になる児童がいる。 ・文章問題に取り組まない児童がいる。	・毎授業の最初に計算相撲(四則計算の基礎問題)を実施し、基礎的な計算力の底上げを図る。 ・板書計画を精選したりプリントを貼らせたりして、児童が長々とノートを書かないようにする。 ・情報を整理して問題の解き方を考えさせていく。 ・分かっていることと聞かれていることを整理して考えさせるようにする。 ・教科書の内容をそのまま展開した授業ではなく、実態に合わせて題材を変えて出題したり発問したりしていく。

５年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・漢字に苦手意識をもっている児童がいる。定着するまで反復練習を行う力が弱い。 【思考・判断・表現】 ・自分の考えが明確になるように、文章の構成を考えたり、筋道が通った文にしたりすることに課題がある。	・ＩＣＴ機器を用いて、興味をもって練習に取り組めるようにする。また、書字の負担を減らすことで、意欲を持続させる。 ・推敲の時間を設定し、互いの文の良さや課題を見付け、伝え合えるようにする。
算数	【知識・技能】 ・計算に苦手意識をもっている児童がいる。ミスした問題を理解できるまで考え直したり定着するまでやり遂げたりする力が弱い。 【思考・判断・表現】 ・文章問題中の変化する２つの量の関係が捉えられず、正確に立式ができない。	・毎回の授業の中で、計算問題に取り組む時間を確保する。また、個別の課題に応じて自身で必要な問題を選択できるよう、ドリルパークを活用する。 ・読み取った数を数直線に表し、それぞれの量の関係を視覚的に捉え、正しい式に結び付けるようにする。

６年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・漢字や語彙の定着が不十分であり、文章を書く際に既習の漢字を活用できていない児童がいる。 ・大切なことを聞き落としたり、設問を正しく読み取って問われていることに正対した解答ができなかったりする児童がいる。 【思考・判断・表現】 ・文章の要約や書く活動全般に苦手意識をもつ児童が多い。	・漢字練習の時に漢字を使った「1行短文づくり」や、作文作成時に「習った漢字を使って書いているのか」を見直す時間を設定する。 ・指示文や教科書本文を丁寧に読み解く機会を設ける。また、全校朝会など話を聞いた後にどんな話だったかを質問したり要約させたりする。さらに、授業内では聞いたことをメモする場面を設定する。 ・「中心となる語句を囲むからつなげて短文にする」といった段階的な手順（スモールステップ）で要約させる。また、ペアなどで「何を書くか」口頭で交流させて、書く内容のイメージをもたせてから記述させる。
算数	【知識・技能】 ・基礎・基本の定着までに時間がかかったり、不十分だったりする児童がいる。また、基本的な計算や問題において、ケアレスミスが目立つ児童が多い。 【思考・判断・表現】 ・文章問題など、活用の問題に対して正しく立式できなかったり、自分の考え方を説明できなかったりする児童がいる。	・授業内で教科書やドリル、プリントを適宜活用し、実態に応じて問題の質や量を調整しながら習熟を図る。 ・見直しを習慣化するため、自己採点の時間を設けたり声掛けを徹底したりする。 ・個別の習熟が必要な児童にはマイ学ノート等を活用し、日常的に計算練習に取り組ませる。 ・毎時間の授業で自力解決の時間を確保し、ペアや全体で考えを説明することを通して、表現する場を設定する。多様な考えを認め合う活動を取り入れ、考え方を広げながら活用できる力を養う。